

研究紀要

北の沢

第35号

令和7年度

秋田県立西仙北高等学校

目 次

< 巻頭言 >	校 長 橋 義 憲
< 研究授業記録 >	
英語科（英語コミュニケーションⅡ）	教 諭 大 釜 美佳子
令和7年度英語教育推進チームによる学校訪問指導	教 諭 大 釜 美佳子
商業科（ビジネスコミュニケーション）	臨時講師 佐 藤 俊 平
研究協議会記録	臨時講師 小野寺ゆかり
< 研修報告等 >	
インターンシップ実施報告	教 諭 武 田 隼 人
A E D 講習	養護教諭 横 山 理 紗
防災に関する職員研修	臨時講師 佐 藤 俊 平
< 地域探究報告 >	
科目「地域探究Ⅰ」報告	教 諭 武 田 隼 人
科目「地域探究Ⅱ」報告	教 諭 武 田 隼 人
科目「地域探究Ⅲ」報告	教 諭 武 田 隼 人
< 編集後記 >	教 諭 佐 藤 裕 紀 子

「北の沢」第35号の発行にあたり、私自身の研修を兼ねて、次期学習指導要領について少しまとめてみました。

2025年9月に中央教育審議会（中教審）の教育課程企画特別部会が次期学習指導要領の「論点整理（案）」を公表しました。次期学習指導要領改訂論議を貫く3つの方向性として以下の3点が挙げられています。

- 1 「主体的・対話的で深い学び」の実装
- 2 多様性の包摂
- 3 実現可能性の確保

1についてはこれまでの「主体的・対話的で深い学び」の一層の具現化・深化を図るものです。2については、不登校や特異な才能を有する子など、一人ひとりの特性に応じた学びを目指すものです。3については、現場の負担軽減と、教師が授業改善に集中できる「余白」を創ることを目指しています。これらの3つの方向であらゆる方策を活用して、「生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる民主的で持続可能な社会の創り手をみんなで育む」ことを目指しています。

高等学校においては、以下のように教育課程を柔軟に編成できるようにすることが検討されています。①教科・科目の柔軟な組み替え ②標準単位数の細分化（現行の74単位を148単位に） ③標準単位数の細分履修の柔軟化（週30コマと示さない） ④科目の履修を免除する仕組みの創設（例えばCEFRB2相当の生徒は英語コミュIを免除等）などです。さらに、上記①から④等とあわせて、全・定・通の相互乗り入れ、学年による教育課程の区分を設けない単位制高校への移行、高校間での単位互換や地域留学、産業界と連携したカリキュラム開発、高等教育機関と連携した単位認定等が一層実施しやすくなる方向で検討すべきであるとされてます。

少し話が変わります。教育という仕事の大きな特徴は、現場における教員一人ひとりの「裁量性」の大きさにあります。どのような教材を選び、どのような発問をし、どのような問いを立てるか。また、授業以外の場面においても、その瞬間の判断は教師の専門性に委ねられています。裁量性の大きさゆえに重い責任が伴います。教育公務員特例法においても、私たちはその職責を遂行するために「絶えず研究と修養に努めなければならない」と定められています。「研究」とは、机上で行われるものだけではありません。目の前の生徒たちに何を提供するのか。より良い指導法を模索する「実践的知恵」の探究です。また「修養」とは、人間としての幅を広げ、豊かな感性と倫理観を磨くことです。私たちは、教育の専門家として、自らの裁量を正しく行使するために、学びを止めてはなりません。研究と修養は義務である以上に、私たちが教師としてあるための生命線なのです。

この研究紀要は、まさにその「研究と修養」の結晶です。日々の授業や校務に追われる中で、私たちはともすれば「やりっぱなし」になってしまうことがあります。しかし、教育の質を高めるために不可欠なのは「振り返り」の作業です。自分が行った実践を文字に

起こし、客観的に見つめ直す。うまくいった要因は何か、改善点はどこにあるのか。言語化するプロセスを経て初めて、経験は「知」へと昇華されます。さらに重要なのは、その知を「共有」することです。優れた実践を一人のものに留めずに、この紀要を通して、同僚の試行錯誤を知り、そこからインスピレーションを得る。あるいは、共通の課題に対して異なるアプローチがあることを学ぶ。本校というチーム全体で知を共有し、組織として学習していく。この紀要が、単なる報告書ではなく、私たちがお互いを高め合うためのものになることを願っています。

結びに、多忙にもかかわらず、貴重な実践をまとめ、素晴らしい原稿を寄せてくださった先生方に心より感謝申し上げます。また、本紀要の編集・発行にあたり、尽力をいただきました先生方にも厚く御礼申し上げます。本書に記された一つひとつの実践が、生徒たちの明るい未来へとつながることを確信して巻頭の言葉とさせていただきます。

英語科「英語コミュニケーションⅡ」学習指導案

実施日時：令和7年7月9日(水)
2校時

会場：202教室

クラス：2年A組(4名)
(男子2名、女子2名)

指導者名：大釜 美佳子

Matthew Wojtysiak

- 1 単元名
Enjoy Communication 1
What's a Purpose of Your Visit (Vista English CommunicationⅡ)
- 2 単元の目標
・入国手続きで入国の目的、滞在場所、期間などの質問に答えられるようになる。
- 3 単元とCAN-DO形式での学習到達目標との関連
・日常的な話題について、一定の支援援助を活用しながら、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りをすることができる。
【2年前期 話すこと(やりとり)】
- 4 単元(題材)の配当計画と評価規準

A知識・技術	B思考・判断・表現	C主体的に学習に取り組む態度
入国審査において、手続きでよく用いられる語彙や表現等を理解している。	入国手続きを通過するために、入国の目的や滞在場所、期間について、実際に使われる表現を用い、話して伝えている。	入国手続きを通過するために、入国の目的や滞在場所、期間について、実際に使われる表現を用い、話して伝えようとしている。

- 5 単元観
本単元は、生徒が経験する機会が増えつつある海外旅行において、到着後すぐにある入国審査でのやりとりについての内容となっている。質問の内容は、入国の目的、滞在場所、期間などおおよそ決まっているので、使用される例文を提示し、正しく理解させたい。
- 6 生徒観
2年生は4名である。本校入学前から英語に対する苦手意識が非常に強い生徒や、コミュニケーションが極端に苦手な生徒もいる。しかし、明るく前向きに学習に取り組む生徒が多いため、ペア学習にも積極的に取り組めるようになってきた。
- 7 指導観
日頃から「話すこと(やりとり)」を伴う言語活動を取り入れていることもあり、簡単な語句や表現を用いて積極的にペア活動に取り組む生徒が多い。一方で、英語が聞き取れなかったり、伝

えたい内容が表現できなかつたりする場合がありますので、聞き直したり、言い直したりできるように板書で支援したい。

8 単元の指導と評価の計画（総時間2時間）

1時間目 … 海外旅行をした場合、その国でしたいことについてのブレインストーミング

2時間目 … 入国審査官役と入国者役になってのロールプレイ（本時2/2）

評価方法：活動の観察、ロールプレイ、振り返りの記録

9 本時の学習（本時2/2）

(1) 目標 入国手続きで入国の目的、滞在場所、期間などの質問に答えられるようになる。

(2) 指導計画

過程	学習活動	指導上の留意点	
		ALT	JET
導入 (10分)	Warm-up 行ってみたい4つの国に旅行した場合、その国でしたいことを挙げる	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの国の特徴を共有する 発音について確認させる 	<ul style="list-style-type: none"> 追加のアイデアを生徒から拾い上げる それぞれの国に関する事柄について意味を確認させる
本時の目標の提示 To be able to answer questions such as the purpose of your visit at the immigration			
展開1 (10分)	スピーキング活動 黒板のワードを参考にして入国審査の際の会話の練習をする	<ul style="list-style-type: none"> 重要表現の意味を確認させる はっきりと聞こえる声で音読させる 	<ul style="list-style-type: none"> 場面の状況をイメージしながら、音読練習させる
展開2 (20分)	ロールプレイ 入国審査官役と入国者役になり、黒板の英文をもとに、入国審査での会話を行う	<ul style="list-style-type: none"> 1回目は英文を見て、2回目は英文を見ないで自然なロールプレイができるように練習させる 	<ul style="list-style-type: none"> 相手にはっきりと伝わる声で会話させる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価】 入国手続きを通過するために、入国の目的や滞在場所、期間について、実際に使われる表現を用い、話して伝えている。 (活動の観察) 【B】</p> </div>
まとめ (10分)	振り返り Dialogを完成させ、実際にどこの国に行ってみたいか考える	<ul style="list-style-type: none"> 海外旅行について興味や理解が深まるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて助言する

What's the Purpose of Your Visit?

訪問の目的は

1

1 KEY EXPRESSIONS!

次の対話を聞いて、練習しよう。

Officer : **What's the purpose of your visit?**

Yoko : Sightseeing.

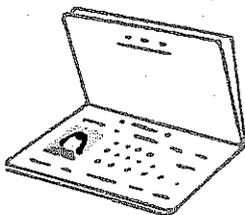
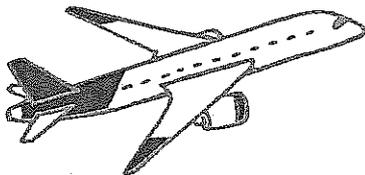
Officer : How long are you going to stay?

Yoko : Three days.



2 FUNCTION CHECK!

入国審査の窓口でよく使われる表現を学ぼう。



●入国審査

Passport, please. (パスポートをお願いします)

●滞在目的

What's the purpose of your visit? (訪問の目的は何ですか)

Sightseeing. (観光です) / Study. (勉強です) / Business. (仕事です)

●滞在期間

How long are you going to stay? (何日間滞在する予定ですか)

Three days. (3日間です) / One week. (1週間です)

3 TALK!

2人で対話しよう。

A : Passport, please.

B : Here you are.

A : What's the purpose of your visit?

B : Study.

A : How long are you going to stay?

B : One week.



令和7年度英語教育推進チームによる学校訪問指導

英語科 大釜 美佳子

1 趣旨

グローバル化の進展に伴い英語教育改革が進展する今日、本県高等学校における英語教育の改善及び充実を目指すとともに、学習指導要領の趣旨を確認しスムーズな移行に資するため、日常の授業改善について具体的な指導・助言等を行う学校訪問指導を実施し、英語担当教員の指導力の向上を図る。

2 訪問校

令和5年度から令和9年度までの5年間で全校を訪問する

3 訪問形態

英語教育推進チームが訪問する。特定授業参観1コマ及び協議会1コマの連続する2単位時間を設定する

4 訪問時の授業参観の観点

(ア)主体的にコミュニケーションを図る総合的な言語活動が設定されているか

(イ)ALTを活用し、効果的なティーム・ティーチングによる授業となっているか

(ウ)学習指導要領を意識した授業になっているか

(エ)研修等の成果が共有され、組織的に授業改善に取り組んでいるか

5 感想等

ALTは月に1週間程度の訪問によるTT(チーム・ティーチング)形式での授業となるため、事前にJETが作成した学習指導案をもとにメール等で推敲を重ねる必要があり、準備に時間を要した。しかし、英語教育推進チームへ事前に指導案を提出したことで、単元の評価規準の適切な記述方法等についての助言を得ることができた。

生徒への指導においては、前時に「行ってみたい国とその理由」を、各国の特徴とともに整理させた。この事前準備により、本時のロールプレイにおいて十分な活動時間を確保することにつながった。

参観した英語教育推進チームの深沢先生からは、「入国審査の場面で、当初は言葉に詰まっていた生徒が、相手や設定を変えて練習を重ねる中で自信を持ってやり取りできるようになった。ALTとJETの積極的な関わりにより、生徒が意欲的に取り組んでいた」との感想をいただいた。

商業科「ビジネス・コミュニケーション」学習指導案

実施日時：令和7年9月25日(木)
6校時

会場：本校（商業実習室）

クラス：3年A組（4名）
ビジネスコース

指導者名：佐藤 俊平

- 1 単元名 第3編 ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーション
第6章 ビジネスにおけるコミュニケーション 第4節 苦情対応
(実教出版 ビジネス・コミュニケーション)
- 2 単元の目標
 - ・苦情対応はどのような場面で行われるかを学習する。
 - ・効果的な苦情対応の方法について理解し、実際に行ってみる。
- 3 単元設定の理由
 - (1) 生徒観 4人という少人数のため発言する機会が多いことで、積極的に授業に向かう姿勢である。
 - (2) 教材観 傾聴と心情理解を基本とし、共感と敬意を示しつつ、冷静な事実確認、適切な解決策の提示、そして感謝の言葉で締めくくるという「聴く→理解→解決→感謝」の流れを重視する。
 - (3) 指導観 冷静さ、論理的思考、そして顧客の心情に寄り添う姿勢を持たせ、効果的な苦情対応につなげたい。
- 4 単元（題材）の配当計画と評価規準

A知識・技術	B思考・判断・表現	C主体的に 学習に取り組む態度
実際のビジネスにおけるコミュニケーションと関連付け、苦情対応の場面で役に立つコミュニケーションに関する知識と技術を身に付けている。	苦情対応に関する課題を発見するとともに、コミュニケーションに関する理論、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養っている。	自らコミュニケーションについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に苦情対応におけるコミュニケーションを図る態度を養っている。

5. 本時の計画（2 / 2時間目）

(1) 本時の目標

状況に応じ適切に対応できる能力を養う

(2) 展開（評価の観点 A知識・技術 B思考・判断・表現 C主体的に学習に取り組む態度）

段階	学習活動	◇指導上の留意点 ◆評価【観点】（評価方法）
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の流れを明示する ・ 苦情対応の5つのプロセスを確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 本時の見通しが持てるようにする ◇ 前時の学習内容を確認する <p style="text-align: right;">◆【A】（ワークシート）</p>
<p>本時の目標：状況に応じた適切に対応できる能力を養う</p>		
展開 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロールプレイング ※ 2つの場面を想定 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ ペアワークを用いて、「顧客」、「企業」の役割を決める。 ◇ 状況を提示し、セリフを考えさせる ◇ 「観察」役は5つのプロセスに基づいて評価させる <p style="text-align: right;">◆【B】（評価シート）</p>
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 本時の内容を振り返り、自己評価をさせる <p style="text-align: right;">◆【B】・【C】（ワークシート）</p>

研究協議会 記録

日 時	令和7年9月25日（木） 15：40～16：30	場 所	商業実習室
教科・科目	3年A組 ビジネスコミュニケーション	記録者	小野寺
出席者	（授業者）佐藤俊平 （司会）小林万寿美 （記録）小野寺ゆかり （参加者）佐藤裕紀子・佐々木満		
<授業者から感想・反省> <p>（佐藤俊）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒4人を想定した内容であったが、3人となってしまう、ロールプレイングのやり方や役割を変更することになってしまった。そこで、授業の落とし所があやふやになってしまい、反省している。 <p>研究授業の視点①「他者と協働して、思考を深める授業づくりの工夫」に関しては、3人での授業でグループを組みにくい状況になってしまい、うまくいかなかった。</p> <p>研究授業の視点②「ICTを効果的に活用した授業づくりの工夫」に関しては、普段からワークシートをデータで配布したり、ポイント等をスクリーンですぐに映し出せるようにしていたので、生徒もスムーズに対応できていた。</p> <p>全体的に、少人数でどのように協働して進めていくのか、どのように思考を深められるのか、考えさせられる授業になった。</p> <p><参加者の感想></p> <p>研究授業の視点①「他者と協働して、思考を深める授業づくりの工夫」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイングにより、具体的な場面を想定しながら学習することができていた。 ・苦情対応という場面でどのようにコミュニケーションを取るべきなのか、他者の対応を参考にしながら回数を重ねていく毎に成長が見られた。 ・生徒との会話の中で、生徒に考えさせたり判断させることで、思考を深める授業づくりができていた。 ・「苦情」ということを、負の状態が終わるのではなく、前向きに考えを改めることが大事であるということがしっかりと伝えられ、将来のために大切な考え方だと感じた。 ・苦情のシチュエーションをもっと細かく設定する、または、教師がクレマー役を演じることで、生徒の対応が分かれて面白かったのではないかな。 ・評価内容を伝え合うと、改善点を自覚し考えを深めることができたのではないかな。 <p>研究授業の視点②「ICTを効果的に活用した授業づくりの工夫」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れが提示されていて、取り組みやすかった。 ・苦情対応の5つの手順が、ポイント毎にスライドに提示されていて、生徒の考えの手助けになっていた。また、評価する場面でも5つのポイントに沿って評価することを何度も確認していた。 ・ICTの活用により、進行がスムーズで、生徒の活動時間が確保できていた。 ・常にタイマーで時間を区切りながら作業を進めていたので、生徒がやるべきことに集中できていた。 <p><まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイングの場面設定は、身近な例やイメージできる状況のバランスが重要であることと、シチュエーションを細かく設定し、企業側の対応に専念させるとよかったのではないかな。 ・ICT機器は教師も生徒も使い慣れていた。今後も、効果的に使ってもらいたい。 			

令和7年度 インターンシップ実施報告

2学年担任 武田 隼人

今年度も県内の多くの事業所のご協力を得て、インターンシップを実施することができた。日常業務に加え、本校生徒の指導にあたっていただき、本校生徒を快く受け入れてくださった各事業所に感謝したい。

生徒はインターンシップを経験することで、働くことの意義や職業理解を深め、今後の自身の進路選択に反映させる。事前指導を始めた際、「働く」ことについて、イメージが湧かず、中学時の職業体験学習と同等に考えていた。しかし、事業所決めや職業・職種研究、依頼電話を通して、インターンシップに向かう気持ちと態度の変容が見られた。3日間のインターンシップ期間を終え、生徒の進路に対する考え方が深まっている。希望する進路に関連した事業所で活動し、職業理解を深めた生徒もいれば、逆に自身の適性に疑問をもち、別の進路を考える機会となった生徒もいた。進路を選択し、進路実現に向け動き始める高校2年生にとって、自分自身と進路を見つめ直す有意義な時間となった。そして、事後指導として事業所へ感謝の気持ちを伝える礼状作成や、1年生に向けて活動の学びや反省を発表するインターンシップ報告会を実施することで、活動で感じたことや考えたことを言語化することができた。

この活動を糧に、生徒一人ひとりが進路について深く考え、進学や就職に向けて成長してくれることを期待している。

(1) 実施日 令和7年7月29日(火)～31日(木)

(2) 参加生徒 2年生全員(4名)

(3) 実施内容

月日	活動内容
4月11日	オリエンテーション
4月18日～4月25日	希望事業所調べ
5月23日	事業所決定
6月6日	個人カード作成、宣誓書の記入、事業所調べ
6月27日	事業所へ依頼状送付(学校→事業所)
7月11日	マナー講習
7月14日～7月18日	事業所へ電話連絡(生徒→事業所)
7月22日～7月25日	日誌準備、礼状書き方指導、報告書書き方指導
7月29日～7月31日	インターンシップ
8月1日	報告書提出、礼状作成・送付
8月18日～8月20日	報告会スライド作成
9月19日	インターンシップ報告会

(4) 生徒の報告会発表スライド (抜粋)

1. 事業所を決めた理由

動物と触れ合い
人間も動物も
住みやすい社会を
築きたい



動物に触れたり
動物の健康管理
好き



2. ワンニャピアってどんな会社？

開設 平成31年  職員 20人
(うち獣医師7名)

動物愛護

適正管理

狂犬病予防

普及啓発

動物管理

全部で6つの事業

3. インターンシップの3日間

【 1日目 】	【 2日目 】	【 3日目 】
会社説明 & 施設見学	飼養管理②	ミルク猫②
ミルク猫 飼養管理	SNS作業	獣医師体験
		

4. インターンシップの学び

基本的に犬や猫を扱う単純作業が多い。

それぞれの担当に分かれて役割を担っている。

動物の体調の状況など、情報を共有している。

5. インターンシップの振り返り

よくできた点

- 担当の方の話を聞いて実際に体験できた。
- 返事や受け答えをすることができた。
- 声を張って挨拶することができた。

改善すべき点

- 積極的に動かないことが多くあった。
- 声が小さいことがあった。
- 臨機応変な対応

6. 今後の学校生活

自分のものは自分で管理する。

コミュニケーション能力を伸ばす。

自分から積極的に行動する。

(5) インターンシップを終えた生徒の学び・感想

- 職場の雰囲気が思った以上にフレンドリーで、優しく教えてもらいました。とても親しみやすかったです。職員の皆さんの中で、色々な情報を共有していたことに驚きでした。
- コミュニケーション能力が欠けると、情報共有の際、伝わりにくく動物の命にも関わると思いました。
- この3日間で人と関わる楽しさを知りました。今は進路選択で迷っていますが、今回経験した業種も視野に入れておきたいと思いました。
- 人と話す時、緊張して真顔になってしまいましたが、インターンシップを通して笑顔で話せるようになりました。
- 今の自分に足りないと思ったことは、積極性です。人から言われてから動くのではなく、自ら動いていきたいと思いました。これからの学校生活で意識していきたいと思いました。
- 仕事をする上で自分に足りないのはコミュニケーション能力だと思いました。自分から話すことができなかったので、学校生活で話したことの無い人や初対面の人とも積極的に話したいと思いました。

AED講習会

生徒指導・保健部
研修・情報・図書部

1 目的 救命に関する正しい知識を理解し、緊急時に心肺蘇生を行う力を身につける。

2 日時 令和7年7月8日（火） 14:20～15:10

3 場所 商業実習室

4 対象 全校生徒・全職員

5 講師 大曲消防署西仙北分署職員2名

6 内容 心肺蘇生法、AED操作について

7 参加者の感想

- ・ AEDの使い方や使用時の注意点などを改めて学ぶことができました。この機会に校内のAED設置場所を確認することができました。
- ・ 胸骨圧迫とAEDの使い方を久しぶりに確認することができました。やはり、避難訓練と同様に、定期的を確認しておくことが大切だと考えました。AEDだけでなく、担架や車椅子などの設置場所の確認もしていきたいです。
- ・ 久しぶりにAEDの講習に参加して、手順としては簡単だが、自分がその場に出会ったときにとっさに動けるか心配になりました。感染症対策のため人工呼吸はやらないということを知ることができました。
- ・ 心臓マッサージのテンポの速さをメトロノームの音で示していたので、とてもわかりやすかったです。生徒と一緒に講習を受けることで、学校全体の一体感が生まれ、良い学びができたと思います。



防災に関する職員研修

防災委員会・研修部

- 1 日 時 令和7年12月19日（金） 13：30～14：15
- 2 内 容 11月18日実施の「令和7年度生活安全指導者研修会」の伝達講習
- 3 目 的 学校安全の中核となる教職員に対して生活安全の研修を行い、指導者の資質向上と学校における生活安全教育の充実を図る
- 4 講 師 佐藤俊平先生
- 5 場 所 商業実習室
- 6 対 象 全職員
- 7 進 行 小野寺
- 8 準 備 小野寺・佐藤



- 9 感 想

本校の校舎は、自然の木を活かした作りになっており、窓枠などの腐食や天井の雨漏りなど思い当たるところが多かった。また、2階の天井が高く照明器具が吊り下げタイプなので、地震などでは注意しなければならないと感じた。

本校は、国道沿いから見えにくい高台にあるため、学校の危険を周りに知らせることが困難である。火災や地震に対する訓練は実施しているが、不審者対応の実践的な訓練は実施していない。

今年度はクマに関する対応が難しかった。校舎が森に囲まれているため、複数回クマが目撃されている。最新の知識を身につけて対策する必要性を感じた。

研修会を通して、学校安全についての知識を深められたと感じている。今後も生徒が安全で安心して過ごせる学校を目指し、校舎内外設備の点検、不審者対策、クマ対策などについて、より一層全職員で取り組んでいきたい。

科目「地域探究」活動報告

地域探究推進委員

武田 隼人

(1) 地域探究 I (1年生)

① 1学期

5月9日(金)「大綱交流館訪問・見学」

大綱交流館を訪問しました。国の重要無形民俗文化財である「刈和野の大綱引き」の大綱の展示をはじめ、韓国の綱引き展示も見学しました。また、隣接する大綱の里伝承館に訪問し、綱づくりの作業場も見学しました。その後、刈和野大綱引保存会の今野幸宏会長から、「刈和野大綱引きについて」の講話をしていただきました。刈和野大綱引き行事の意義や歴史について深く学ぶことができました。



6月6日(金)「公文書館職員の講話」

秋田県公文書館の伊藤成孝先生を講師に迎え、「公文書館所蔵資料にみる西仙北地域の歴史」について学びました。江戸時代の地図と現在の地図を比較し、航空写真を見たりしながら、西仙北地域の成り立ちや発展の歴史を教えてくださいました。初めて見る昔の地図や新たに知る情報に、生徒だけでなく一緒に講話を聞いた先生たちもワクワクが止まりませんでした。



8月29日（金）「益満環先生の模擬講義」

この日は、秋田大学教育文化学部の益満環准教授を講師に迎え、『シティプロモーションによる地域活性化』の模擬講義をしていただきました。秋田県や西仙北地域が抱える課題や現状をどのように捉え、地域に眠る資源や魅力をどのようにして外部へと情報発信していけばよいのかを学びました。



9月26日（金）「フィールドワーク」

先月の益満先生の模擬講義を踏まえ、「西仙北地域の魅力を再発見しよう！」をテーマに西仙北地域の各所にフィールドワークしに行きました。生徒全員で行動し、訪問先で写真撮影やインタビューを通して、西仙北地域の魅力を発見したり、理解を深めたりしました。



【 フィールドワーク訪問先 】

ワインテラスかめや → 刈和野駅前通り → 西仙北支所

11月7日（金）「フィールドワークポスター発表会」

9月26日に実施したフィールドワークをもとに、西仙北地域の魅力を発信するポスターを制作しました。この日は、秋田大学教育文化学部地域文化学科の益満ゼミの学生をアドバイザーとして迎え、フィールドワークポスター発表会を実施しました。生徒は、スポット、選んだ理由、スポットの魅力、フィールドワークの感想、ポスター制作時の工夫などを発表しました。アドバイザーの学生からは、発表やポスターの良かった点や改善点などを指導助言していただきました。後日、いただいたアドバイスをもとに、ポスターを修正しました。



ワインテラスかめや

所在地 〒019-2112 秋田県大仙市刈和野365
 電話番号 0187-75-1124
 営業時間 10時00分-18時30分



・コンセイエが居るお店
 ・種類：400～500種
 ・1番値段が高いワインは1900年代のもので値段はなんと30万円！

おすすめワイン
 2023 ビロスマニ サベラヴィ
 ジョーリア原産のサベラヴィという品種のブドウを使ったやや辛口のワイン！！

大綱の響
 年に3回販売される限定品
 種類は・しぼりたて新酒
 ・夏バージョンの生貯蔵酒
 ・醸成酒
 値段 ¥2,200

←ワインテラスかめやでも取り扱っています
 今年で「大綱の響」は30周年！

雄清水・雌清水

Oshizu 오정수 Meshizu 암컷 정수

清らかに生きる、
 水で変える。

営業時間：年中無休
 住所：〒019-2202 秋田県大仙市大沢郷宿
 アクセス：JR刈和野駅から車で約15分、
 西仙北ICから車で約10分

特徴：3つの湧き水や野菜直売所
 夏季限定発売の湧き水を使用したビール



大綱食品

住所大仙市土川字上野152
 電話番号 0187-75-1305

HPの注文や道の駅の店頭で買えます。

秋田で有名ながっこだから食べてけれ～



③3学期

2月6日(金)「課題研究 中間報告会」

1年生は冬から課題研究活動が始まりました。生徒一人ひとりの興味関心があるもの、地域で課題と感じていることをテーマにして研究を進めていきます。研究(仮)テーマと研究手順は以下のとおりです。

【研究(仮)テーマ】

「雄清水・雌清水」

「文化を守る～大正寺おけさ～」

「土川神社祭典について」

【研究手順】

- (1) 研究テーマについて
- (2) リサーチ・クエスチョン
- (3) 仮説
- (4) 調査方法
- (5) 関係するSDGs
- (6) 先行研究・実践事例
- (7) 調査
- (8) 考察
- (9) 結論

秋田大学教育文化学部の益満環准教授をアドバイザーに迎え、発表会を実施しました。益満先生から、課題研究の進める際のポイントや各研究テーマの調査における別視点の切り口、研究の方向性などをアドバイスしていただきました。



(2) 地域探究Ⅱ（2年生）

① 1学期

「課題研究の調査・分析」

1年の冬から西仙北課題研究がスタートしています。昨年は、問題意識や現状、実践事例や先行研究について考えたり、調べたりしました。2年生では、昨年の調査から見えてきた新たな疑問や仮説を検証するために、調査・分析を進めています。現地調査に行ったり、Googleforms を活用しアンケートを取ったりしています。



② 2学期

9月16日（火） 課題研究活動 「フィールドワーク」

2年生は、グループ研究ではなく個人研究として、課題研究活動を進めています。生徒一人ひとりがフィールドワーク先を決め、訪問先に電話にてアポイントメントを取り、現地調査やインタビューを実施しました。生徒の中には、SNS 発信をしている秋田インフルエンサーにメールで連絡を取り、取材やアンケートを実施した人もいました。

生徒1	課題研究テーマ	「祭りを活気づけよう！」
	フィールドワーク訪問先	: 大綱交流館、強首白菜農家
生徒2	課題研究テーマ	「大佐沢公園復活作戦」
	フィールドワーク訪問先	: 協和支所、西仙北支所
生徒3	課題研究テーマ	「太田には何故秋のまつりがいないのか」
	フィールドワーク訪問先	: 太田支所、横沢ねぎ農家
生徒4	課題研究テーマ	「SNSによる情報発信」
	フィールドワーク訪問先	: 西仙北支所



11月7日（金）課題研究活動 「中間報告会～益満ゼミ生による指導助言～」

春から進めている調査活動と9月に実施したフィールドワークの活動結果を Google スライドでまとめてきました。この日は、秋田大学教育文化学部地域文化学科の益満ゼミの学生3名をアドバイザーとして迎え、課題研究活動の中間報告会を実施しました。生徒たちは調査活動で得られた情報や分析結果などを発表し、今後の研究の進め方について質問したり、相談したりすることで課題研究活動の方向性を修正しました。益満ゼミの学生は、親身になって発表を聞いてくださり、熱心かつ丁寧に指導助言してくれました。



③3学期

2月6日（金）「課題研究 中間発表会」

2年生の活動の集大成である課題研究中間発表会を実施しました。秋田大学教育文化学部の益満環准教授をアドバイザーに迎え、生徒一人ひとりが発表しました。益満先生から、「去年の冬よりレベルアップしているので、最終発表が楽しみ。」とお褒めの言葉をいただきました。また、「イベント企画では性別や年齢など、『誰を』ターゲットに置くのが重要。」や「企画する際は、『尖った』案を考えなければ他と差別化ができない。」等、具体的なアドバイスもいただきました。来年度の6月に予定されている最終発表会に向けて今後も調査活動を続けていきます。



(3) 地域探究Ⅲ (3年生)

① 1学期

6月21日(土)「西高祭」

西高祭2025が実施され、体育館で行われたステージ発表では3年生による地域探究Ⅲの発表会が披露されました。2年間の探究活動の成果を、保護者や地域の方々に聞いてもらいました。最終発表は7月です。



7月15日(火)「地域探究Ⅲ発表会」

本校の商業実習室を会場に、地域探究Ⅲの発表会を実施しました。昨年から2年間かけて調査・研究・考察してきた課題について、発表しました。秋田大学教育文化学部の准教授である益満環先生をはじめ、地域探究の授業でお世話になった外部指導者をアドバイザーに、学校運営協議会委員をゲストとして迎え、全校生徒に見守られ、3年生は研究の成果を堂々と発表しました。今回、発表した課題研究テーマは以下の通りです。

自然グループ 「雄物川の歴史と観光利用～自然との共存～」
歴史グループ 「椒沢番楽の歴史について」
食文化グループ 「食で人々の心をつかめ!!」
文化グループ 「読み聞かせについて～西仙北の伝承よ、永遠なれ～」





7月28日(月)「中学生体験入学」

夏休みに入り、中学生を対象とした本校の体験入学が実施されました。本校独自の学習として、3年生による地域探究の説明と発表が行われました。堂々と地域探究の発表をしましたが、中学生の目にはどのように映ったのでしょうか。



②2学期

8月23日(土)「にしせんにぎわいフェスティバル」

3年生は、大綱交流館を会場に行われた第3回にしせんにぎわいフェスティバルに参加しました。西仙北高校の展示ブースを準備していただき、ブース内で文化グループによる読み聞かせが行われました。地域の小さい子どもやそのご家族にたくさん聞いてもらいました。

地域探究で学んだ成果を、地域の行事で披露できました。



第3回にしせんにぎわいフェスティバル
IN 大綱交流館
2025.8.23 土 14:00~19:00

グルメ **マルシェ** **ステージ**

DJ yuusukee **西仙北高校生企業展** **羅漢**

駐車場
 大仙市役所西仙北支所 (大仙市対馬野字本町5番地)
 大綱交流館向かい空き地

主催：にしせんにぎわい実行委員会
 共催：西仙北高等学校 対馬野字地区公民館
 問い合わせ：0187-75-2965

夏休み明け「課題研究報告書の作成」

夏休み明けから、課題研究報告書の作成が始まりました。右のような構成で、2年間の取組をまとめていきます。どのような報告書が完成するのか楽しみです。

要約

1. 研究の動機
2. 研究の調査
3. 研究の結果・考察
4. 今後の課題（まとめ）
5. 参考文献・URL・協力先

9月30日（火）「西仙北地域協議会」

西仙北支所からの依頼を受け、「西仙北地域協議会」に参加し、地域探究の発表をしました。自然グループと食文化グループが発表し、地域の方々に地域探究の取り組みや活動の成果を知ってもらいました。



2025年度 年間指導計画

教科	地域探究	科目	地域探究 I	単位数	1 単位
学級 (コース)	1A	使用教材	独自テキスト(プリント資料)		
教科の目標	・地域の文化、伝統、産業について理解を深める。 ・これからの地元の発展にとって重要と思われるアイデアについて具体的に考察するとともに、その内容を効果的にプレゼンテーションする技能を高める。 ・地域社会を支え、高める意識と能力を養う。				
科目の目標	・西仙北地域の文化、伝統、産業について理解を深める。 ・これからの西仙北地域の発展、あるいは防災にとって重要と思われるアイデアについて具体的に考察するとともに、その内容を効果的にプレゼンテーションする技能を高める。 ・地域社会を支え、高める意識と能力を養う。				
評価の観点	知識・技能(知技)		思考・判断・表現(思判表)		主体的に学習に取り組む態度(主体)
観点の趣旨	・地域の特徴や文化、伝統、産業の基本的知識を理解できる。 ・データの収集・まとめ・プレゼンテーションについての基本的な技能を身に付ける。		・地元の発展について重要と思われるアイデアについて、具体的な方策を見出す。 ・自分の考えについて適切な手段・表現を活用し、わかりやすく伝える。		・地域の文化、伝統、産業について興味を持ち、探究しようとする。 ・周囲と協力して学習活動に取り組む。

月	単元	学習項目	学習内容や学習活動	評価の観点			主な評価規準(評価の材料等)	1A				備考
				知	思判表	主体		ア 定 時	実 施 時	ア 定 時	実 施 時	
4	西 仙 北 地 域 の 魅 力 ・ 課 題 の 発 見	・地歴公民科講話 (授業オリエンテーション)	授業の目的と計画を理解する。			○	・授業の目的と計画を正しく理解する。(授業状況)	10				
		・授業(西仙北地域の特徴・魅力 について①)	西仙北地域の特徴を理解する。	○	○	・西仙北地域を地理的・歴史的な側面から正しく理解し、その内容を適切にまとめることができる。(課題提出)						
		・授業(西仙北地域の特徴・魅力 について②)	西仙北地域だけでなく、生徒の出身地域の特徴・魅力を理解する。		○	○	・各地域の魅力を正しく理解し、その内容を適切にまとめることができる。(課題提出)					
5	・大綱引き保存会講話 (大綱引きについて①)	大綱引き行事の意義や歴史を学ぶ。	○	○	・大綱引き行事の意義や歴史を正しく理解し、その内容を適切にまとめることができる。(課題提出)	大綱交流館に 訪問						
	・授業(大綱引きについて②)	全国にある大綱引き行事との類似点・相違点を調べまとめる。		○	○	・大綱引き行事の意義や歴史を正しく理解し、その内容を適切にまとめることができる。(課題提出)						
6	・授業(西仙北地域の歴史について①)	昔と現代における西仙北地域の地図を比較し、変化について考察する。		○	○	・西仙北地域の地図を比較し、その変化について適切にまとめることができる(授業状況・課題提出)	渡部先生来校 (あきた県庁出 前講座)					
	・授業(西仙北地域の歴史について②)	西仙北地域に伝わる文化財の特徴を理解する。	○	○	・西仙北地域に伝わる文化財を調べ、その特徴や文化・歴史的な価値を理解する(授業状況・課題提出)							
	・秋田県立公文書館渡部先生の講話(西仙北地域の歴史について③)	西仙北地域の歴史的特徴を理解する。	○	○	・大綱引き行事の意義や歴史を正しく理解し、その内容を適切にまとめることができる。(課題提出)							
7	・授業(西仙北地域の歴史について④)	西仙北地域の歴史的特徴を理解する。		○	○	・渡部先生の講話内容を理解した上で、秋田県内の歴史の変遷について考察することができる。(授業状況・課題提出)						
	1学期の学習内容のまとめ	1学期の活動の振り返りと、自己評価を行う。	○	○	・1学期の活動を振り返り、適切な文章でまとめることができる。(課題提出)							
8	地 域 の 魅 力 の プ ロ モ ー シ ョ ン ・ フ ィ ー ル ド ワ ー ク	・秋田大学益満先生による講話 (地域魅力プロモーションについて)	シティブロモーションの手法とその効果について理解する。	○	○	・シティブロモーションの手法とその効果について正しく理解するとともに、その内容を適切にまとめることができる。(課題提出)	益満先生来校					
・西仙北地域でのフィールドワーク活動計画の作成		グループ毎に、テーマ、計画(日時・担当地区など)を設定する。		○	○	・主体的に、適切なテーマと計画を設定することができる。(授業状況・課題提出)	校外活動 午後2H					
・フィールドワークの実施・写真撮影		町歩きやインタビュー、写真撮影を通じて、西仙北地域の魅力をみつける。		○	○	・他者と協力しながら適切な方法でインタビューや写真撮影を実施することができる。(授業状況)						
・情報科による授業 (プレゼンテーション)		プレゼンテーションの技法について学ぶ。	○	○	・効果的なプレゼンテーションの技法について理解し、これを活用している。(授業状況)							
・フィールドワークの内容のまとめ		適切な方法で、西仙北地域の魅力をまとめる。		○	○		・適切に内容をまとめ、レポートおよび写真を元にしたポスターを作成できている。(授業状況)					
10	・フィールドワーク発表会	適切な方法で、西仙北地域の魅力を発表する。		○	○	・レポートおよびポスターをもとに、わかりやすく内容を伝えることができる。(授業状況)	益満ゼミ生来校					
11	レ ポ ー ト の 作 成	・課題研究(テーマ設定①)	これまでの授業を振り返り、地域にある魅力や資源についてまとめる。	○	○	・これまでの活動を振り返り、自身が見つけた地域の魅力や資源についてまとめることができる(授業状況・課題提出)						
		・課題研究(テーマ設定②)	個別に、地域発展に関する課題研究のテーマを設定する。		○	○		・主体的に、適切なテーマを設定することができる(授業状況・課題提出)				
		・課題研究(テーマ設定③)	設定したテーマに関して、地域が抱える問題やSDGsとの関係性について考察する。		○	○		・地域の現状や抱える問題についてまとめ、自身が設定したテーマとSDGsとの関係性についてまとめることができる(授業状況・課題提出)				
12	課 題 の 発 見	・課題研究(先行研究・実践事例調査)	設定したテーマに関して、適切な方法で先行研究や実践事例の情報を収集する。		○	○	・設定したテーマに関連する先行研究や実践事例について調査し、まとめることができる(授業状況・課題提出)					
		・課題研究(発表会準備)	調査した内容をスライドにまとめたり、原稿を作成したりする。	○	○	・調査内容について適切な方法でまとめている。効果的なプレゼンテーションの技法を活用している(授業状況・課題提出)						
		・調べ学習発表会	適切な方法で、調べた内容を発表する。		○	○	・プレゼンテーションの技法を効果的に用いて、わかりやすく内容を伝えることができる。(授業状況)					
3		・発表会の振り返りとデータ修正	発表会で受けたアドバイスをもちに、スライドのデータを修正する。	○	○	・スライドのデータを適切に修正することができる。(授業状況)	益満先生来校					
		・今年度の活動の振り返り	今年度の活動の感想と、自己評価を行う。		○	○	・適切に今年度の学習内容をまとめ、自己評価を行うことができる。(課題提出)					
・講話(「地域探究Ⅱ」コース選択について)	来年度の「地域探究Ⅱ」の概要とテーマ設定について理解する。	○	○	・授業の概要とテーマ設定について正しく理解する。(授業状況)								

2025年度 年間指導計画

教科	地域探究	科目	地域探究Ⅲ	単位数	1単位
学級 (コース)	3A	使用教材	独自テキスト(プリント資料)		
教科の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化、伝統、産業について理解を深める。 ・これからの地元の発展にとって重要と思われるアイデアについて具体的に考察するとともに、その内容を効果的にプレゼンテーションする技能を高める。 ・地域社会を支え、高める意識と能力を養う。 				
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・西仙北地域の「食」、「歴史」、「文化」、「自然」についてコース別活動を通じて理解を深める。 ・これからの西仙北地域の発展、あるいは防災にとって重要と思われるアイデアについて具体的に考察するとともに、前年度の成果と反省を踏まえつつその内容を効果的にまとめ発表する技能を高める。 ・地域社会を支え、高める意識と能力を養う。 				
評価の観点	知識・技能(知技)		思考・判断・表現(思判表)		主体的に学習に取り組む態度(主体)
観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の「食」、「歴史」、「文化」、「自然」の知識を理解できる。 ・データの収集・まとめ・プレゼンテーションについての技能を身に付ける。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地元の発展について重要と思われるアイデアについて、具体的な方策を見出す。 ・自分の考えを適切な手段・表現を活用し、わかりやすく伝える。 ・適切に研究内容をまとめ、レポート等を作成できる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の「食」、「歴史」、「文化」、「自然」について興味を持ち、探究しようとする。 ・周囲と協力して学習活動に積極的に取り組む。

月	単元	学習項目	学習内容や学習活動	評価の観点			主な評価規準(評価の材料等)	1A		備考		
				知技	思判表	主体		予定 時数	実施 時数			
4	コース別課題研究	授業オリエンテーション	授業の目的と計画を理解する。			○	・授業の目的と計画を正しく理解する。(授業状況)	10				
		コース別課題研究	計画に従って、探究活動を行う。	○	○	○	・他者と協力し前年度の活動を踏まえながら、主体的な活動ができている。(授業状況・課題内容・課題提出状況)					
5	コース別課題研究	コース別課題研究	計画に従って、探究活動を行う。	○	○	○	・他者と協力し前年度の活動を踏まえながら、主体的な活動ができている。(授業状況・課題内容・課題提出状況)					
6	コース別課題研究①	課題研究の報告準備	効果的な発表ができるよう、適切な方法で準備を行う。	○	○	○	・他者と協力しながら、活動内容を適切にまとめている。(授業状況・課題内容・課題提出状況)					
		課題研究の報告準備	効果的な発表ができるよう、適切な方法で準備を行う。	○	○	○	・他者と協力しながら、活動内容を適切にまとめている。(授業状況・課題内容・課題提出状況)					
7	コース別課題研究①	課題研究発表会	適切な方法で、調べた内容を発表する。	○	○	○	・プレゼンテーションの技法を効果的に用いて、西仙北地域のためのアイデアをわかりやすく伝えることができている。(授業状況)					アドバイザー来校
8	コース別課題研究②	課題研究発表会の振り返り	課題研究発表会の感想をまとめ、自己評価を行う。	○	○	○	・発表会での評価やゲストの方々からのアドバイスをもとに、プレゼンテーションの改善や探究活動の内容について建設的な話し合いをしている。(授業状況・課題内容・課題提出状況)					
9		課題研究のまとめ	課題研究活動の内容についてまとめ、レポート等を作成する。	○	○	○	・他者と協力しながら、活動内容を適切にまとめている。(授業状況・課題内容・課題提出状況)					
10		課題研究のまとめ	課題研究活動の内容についてまとめ、レポート等を作成する。	○	○	○	・他者と協力しながら、活動内容を適切にまとめている。(授業状況・課題内容・課題提出状況)					
11	課題研究のまとめ	課題研究活動の内容についてまとめ、レポート等を作成する。	○	○	○	・他者と協力しながら、活動内容を適切にまとめている。(授業状況・課題内容・課題提出状況)						
12	課題研究のまとめ	課題研究活動の内容についてまとめ、レポート等を作成する。	○	○	○	・他者と協力しながら、活動内容を適切にまとめている。(授業状況・課題内容・課題提出状況)						
1		今年度の活動の振り返り	適切な方法で、自分たちの活動内容をまとめる。	○	○		・適切に今年度の学習内容をまとめ、自己評価を行うことができる。(課題提出)	3				
2												
3												

28 0 0 0

編集後記

今年度も教員全員を対象とした公開授業や様々な職員研修を実施いたしました。小規模校だからこそ可能な、本校の事情や具体的な場面に即した実践的な研修が多くあったのではないかと思います。我々教員も、時に好奇心旺盛に、時に当事者意識をもって真剣に、互いに忌憚のない話をしながら、「主体的・対話的で深い学び」を得ることができたのではないのでしょうか。

お忙しい中、今年度の研修を支えてくださいました皆様、そして寄稿してくださいました先生方、発刊に御尽力くださいました皆様に心から御礼申し上げます。

令和8年2月 研修部

令和7年度 研究紀要「北の沢」

令和8年2月 発行

発行者 秋田県立西仙北高等学校

編集 秋田県立西仙北高等学校研修・情報・図書部